

管理部・ヘッド部の運用整理表

Table with columns: 通番, 資料(情報)名, 運用種別情報, 情報名称, 通信処理用, 具体電文内容, 備考. It lists various meteorological and seismic data items with their respective codes and processing details.

EditorialOffice/PublishingOffice
気象庁本庁、及び東京管区気象台が発信する情報に関して、本XML電文ではEditorialOfficeを常に「気象庁本庁」とする。PublishingOfficeについては、表中の括弧書きに従う。
「観測担当官署」については、Control部Title「生物季節観測」以外のものは、各管区気象台、沖繩気象台、各地方気象台、測候所(観望官署を除く。)となる。

ReportDate/TargetDate/ValidDate
記載は、その時刻が業務的に持つ意味と、時刻を示す業務上の単位(精度)を示す。「-」表記は当該要素を利用しないことを示す。※印の意味は以下の通り。
※1 数分の誤差がある
※2 5分単位に丸める
※3 予報(発表)日時と同じ

EventID
現象・予報・警報等の独立した情報単位として、他の情報と組み合わせる場合にどのような値を含むのかを示す。「-」表記は独立した情報単位を示す際に当該要素を利用しないことを示す。※印の意味は以下の通り。
※1 14桁数字表記する。なお、同一地震であっても、緊急地震速報・震度速報(以上)、自動処理による発表と、津波警報・予報・津波情報・地震情報(以上、手動による発表)の間でEventIDが一致しないこともある。

Serial
※「空タグ」: 台風に関して必要時に発表する全般台風情報のうち、台風が発生したときに必ず発行する「発生情報」において、通番をいわず「空タグ」とする。
「n(1~)」: 台風に関して必要時に発表する全般台風情報(総合情報、上陸等情報)、全般台風情報(位置)では、通番を1から付与する。これら台風の「位置情報」「総合情報」「上陸等情報」について一連の情報として一連の通番は原則これらの情報の発表順に付与する。

Code値の出現する要素
Head部における各種コード値を格納できる要素「Code」要素)において、コード値が出現する際の観測要素名を資料(情報)名別に表記する。